

## 高金利通貨およびオーストラリア・ドル、カナダ・ドル マンスリー・レポート



**ブラジル**



**メキシコ**



**トルコ**



**南アフリカ**



**オーストラリア**



**カナダ**

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

設定・運用 明治安田アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号  
加入協会：(社)日本証券投資顧問業協会/(社)投資信託協会



## ブラジル



**【足元の金融市場の動き】 ~ ブラジル・レアルは反発するも戻りは限定的 ~**  
 ブラジルでは2010年10~12月期の実質GDP(国内総生産)成長率は前年比で5.0%と、ピークは過ぎたとみられますが、高い水準を維持しています。個人消費、輸出も好調で景気は依然好調との見方が強まっています。政策金利は3月に0.5%引き上げられ11.75%となりました。ブラジル・レアルは中東・北アフリカ情勢の影響から売られた後、上昇に転じましたが、東日本巨大地震の後には円が買われたことから戻りも限られました。

**【当面の金利・為替の見通し】 ~ ブラジル・レアルは経済の安定成長への移行、金利先高観などから堅調か ~**  
 同国財務相は2011年の成長率は4~5%になるとの見方を示しました。減速しつつありますが、堅調な内需や上昇基調の消費者物価などから追加利上げの可能性も高まっています。ブラジル・レアルは、通貨高による輸出競争力の低下が危惧される業種があり追加的な通貨高抑制策導入の可能性が残ることや、投資家のリスク回避的な動きが警戒されますが、金利先高観や流入が続く海外資本などから堅調とみています。



## メキシコ



**【足元の金融市場の動き】 ~ メキシコ・ペソはエネルギー価格の上昇を受け反発するも、円の上昇で下落 ~**  
 メキシコでは2010年10~12月期の実質GDP成長率が前年比で4.6%と高い成長率となりました。失業率は小幅に上昇しましたが、個人消費関連、製造業関連指標とも良好で、景気回復が続いているとみられます。足元の物価の落ち着きもあり政策金利は4.5%に据え置かれています。メキシコ・ペソは、投資家のリスク回避の動きから2月下旬にかけて下げた後に反発しましたが、東日本巨大地震の後には円が買われ再び下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】 ~ メキシコ・ペソは米国景気動向、エネルギー価格などから堅調か ~**  
 景気については輸出主導で回復を続けると予想されます。海外における労働者からの送金額の減少傾向が続いていますが、米国の雇用環境に改善がみられていること、原油価格が底堅い動きとなっていることからメキシコ経済へのプラス効果が期待されます。金融政策は現状維持の可能性が高いとみられます。メキシコ・ペソはリスク回避的な動きが警戒されますが、好調な米国景気に加え、中東・北アフリカ情勢を受けて原油価格が上振れし易くなっていることもあり堅調な展開が続くと予想されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## トルコ



**【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは下落後、株価の反発受け上昇～**

トルコでは失業率の低下は小幅にとどまっていますが、1月の鉱工業生産が前年比で高水準にあることや消費関連の指標も好調を示すなど景気回復が続いています。政策金利は1月から6.25%となっています。トルコ・リラは3月初旬にかけて中東・北アフリカ情勢などを受けて下落しました。その後は株価の上昇を受けて反発しましたが、リスク回避的に円が買われ下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは中東・北アフリカ情勢などから上値は限定的か～**

景気については内需中心に緩やかな拡大が続けるとみられます。物価は足元では落ち着いていますが、原油価格の高騰が続いていることから、動向が注視されます。貿易収支については、好調な内需や自国通貨高による輸出の減少が懸念されていますが、昨年11月以降の通貨下落や利下げによる通貨高抑制効果の浸透から改善されるとみられます。トルコ・リラは投資家の高金利通貨選好が根強い一方で、政府の自国通貨高抑制策や中東・北アフリカ情勢、投資家のリスク回避的な動きなどもあることから、上値は限定的とみられます。



## 南アフリカ



**【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは堅調に推移した後、小反落～**

南アフリカでは政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、2010年10～12月期の実質GDP成長率や12月の実質小売売上(前年比)が市場予想を上回ったことに加えて、金など貴金属相場が上昇したこともあり、3月上旬にかけて堅調に推移しました。その後は、1月の製造業生産が市場予想を下回ったことや東日本巨大地震の発生を受けて円を買う動きがみられたことから小反落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドの上値は重いか～**

南アフリカの消費者物価指数(前年比)は同国準備銀行の目標レンジの下限に近い水準3%台で推移していますが、国際商品市況が高値圏で推移していることから上昇圧力は強まるとみられます。同国景気は引き続き回復基調とみられますが、失業率が高止まりしていることから緩やかなものになるとみられます。同国準備銀行は現行の政策金利を継続しながら、インフレに対する警戒を続けるとみえています。南アフリカ・ランドは、引き続き投資家のリスク回避の動きが広がりやすい環境にあることから、上値は重いとみえています。

データ出所: Bloomberg, 目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## オーストラリア



**【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルは投資家のリスク回避姿勢などから下落 ～**

オーストラリアでは2010年10～12月期の実質GDP成長率は前期比で0.7%と持ち直し、8四半期連続のプラス成長となりました。ただ、足元では雇用者数の減少や消費関連指標の鈍化もみられました。政策金利は4.75%に据え置かれました。オーストラリア・ドルは資源価格が高騰する一方で景気の先行き不透明感もありもみ合いとなった後、投資家のリスク回避の円買いを受けて下落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは資源価格、QE2継続への思惑などからもみ合いか～**

景気については、世界景気の回復が続いていること、好調な資源関連企業の業績、洪水被害の復興需要などの期待が持てる一方で、新興国の金融引き締め、中国の貿易収支が赤字になるなど、成長の鈍化に対する危惧もあります。金融政策については幾分引き締めのスタンスを維持しつつ、政策金利は当面据え置かれるとみえています。オーストラリア・ドルは資源価格の高騰はあるものの、米国のQE2(量的金融緩和政策の第2段階)継続を巡る思惑、投資家のリスク回避的な動きもあり、レンジ内での動きが予想されます。



## カナダ



**【足元の金融市場の動き】～ カナダ・ドルは強弱入り混じる経済指標と外部環境の影響から方向感を欠く～**

カナダでは2010年10～12月期の実質GDP成長率は3.3%(年率換算)と市場予想を上回りました。12月小売売上高(前月比)は予想外のマイナスに転じました。政策金利は1.00%に据え置かれました。カナダ・ドルは2月下旬にかけて、中東・北アフリカの政情不安を受けたリスク回避の動きから軟調に推移しました。その後、2月末に発表された実質GDPや米国の好調な経済指標などから一時上昇しましたが、東日本巨大地震を受けてリスク回避的に円を買う動きがみられたことから反落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ カナダ・ドルは外部要因から上値の重い展開か～**

景気については、1月貿易統計や2月雇用統計は前回より弱めの結果だったものの、依然として回復基調にあります。カナダ・ドルは、国内景気や主要貿易相手国である米国の景気が上向きであるものの、中東・北アフリカの政情不安の長期化による不安定な原油相場、燻り続ける欧州債務問題、東日本巨大地震の被害拡大の影響による世界景気の減速懸念などの外部要因が重石となり、上値の重い展開になるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

## 【原油価格上昇に要注意】

中東・北アフリカにおける民主化要求デモの過熱化を受けて、原油価格が上昇しています。特に、ICEブレント(主に北海で採鉱される硫黄分の少ない軽質油)の上昇は顕著で年初来で約20%上昇しました。市場で有名なWTI(米国西テキサス産の良質な軽質油)の同約11%の上昇と比べてみても、ICEブレントの上昇が際立っています。この価格差の主な要因として、日量160万バレルを産出していたリビアが内戦状態となり日量40～50万バレルまで落ち込んでいることが挙げられます。現在、リビアの減産分を補うために原油の中央銀行ともいうべき盟主サウジアラビアが日量70万バレルを増産しています。しかし、サウジアラビアの原油は重質油であるため、リビア産の軽質油の代替となるには分解処理を行う必要があります。そのため、リビアの主要輸出先である欧州(特に旧宗主国であるイタリア)での原油の需給に逼迫感が高まったことから、通常はほぼ同程度の価格であるWTIに対して大きく上昇しました。仮に原油価格が10%上昇すると、世界の経済成長率を0.25%引き下げるといわれています。仮にICEブレントがさらに10%上昇すると、世界経済の成長率(IMF予想)が4.5%から3%台に落ち込み、インフレリスクも高まることとなります。原油価格の動向からは引き続き目が離せません。

原油先物価格の推移(WTIとICEブレントの期近物)  
(ドル/1バレル)



Bloombergデータより明治安田アセットマネジメント作成

※WTI、ICEブレントに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はニューヨーク商業取引所、ロンドン国際石油取引所に帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。